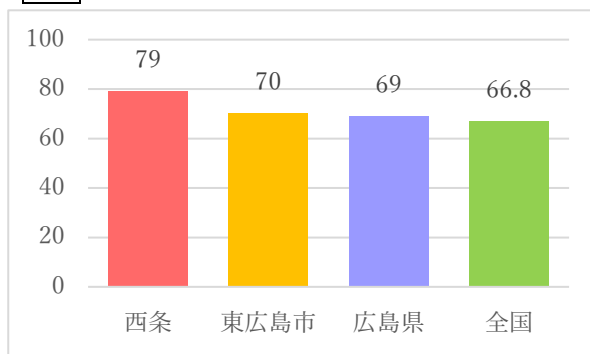


令和7年度「全国学力・学習状況調査」学力分析について

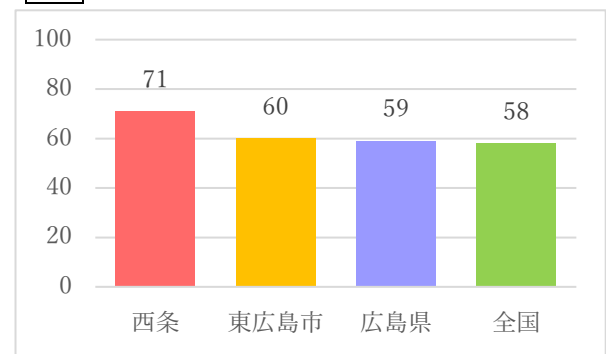
東広島市立西条小学校

「全国学力・学習状況調査」 平均正答率

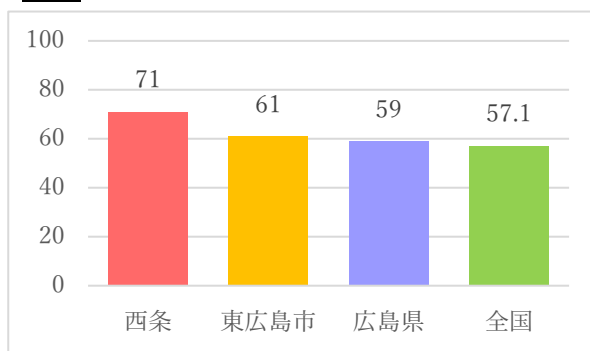
国語



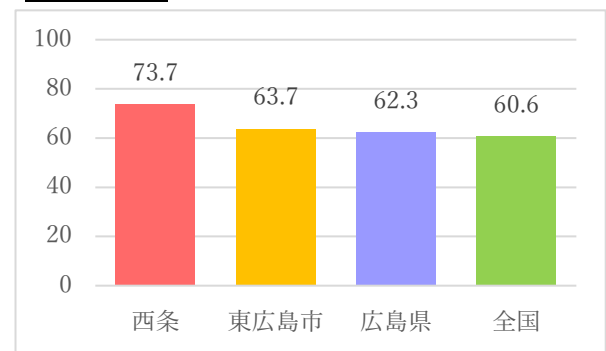
算数



理科



三教科平均



上記のグラフから、本校の児童は、どの教科も概ね学力が定着していることが分かります。

しかし、国語科、算数科では、問題文から読み取ったことを基に、目的に応じて自分の考えを表現することに課題が見られます。理科では、身に付けた知識・技能を活用したり説明したりすることに課題が見られます。

国語科では、文章の構成を考える問題や自分の考えを伝える書き表し方の工夫を考える問題、算数科では、台形の意味や性質を踏まえた上で複数の図形から台形を選ぶ問題や、「100%増量」の意味を理解し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを記述する問題、理科では顕微鏡を操作するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題や、温度差によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題の正答率が低いという結果になりました。

本校では、様々な学習の場において、対話の中で自分の考えを表現する力を育む取組をしています。更に昨年度から、「単元内自由進度学習」等、一人ひとりに応じた学び方を大切にした授業にも取り組んでいます。学習計画に合わせて、決められた時間内に学習が進むように、自分で計画を立て、学ぶ場所や方法を選びながら、自分に合った学びを展開し、自ら調整しながら学ぶ力をつけてほしいと取り組んでいます。

児童アンケート調査では、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問項目に対して、88%の児童が肯定的に捉えています。また、同様の質問として「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができるとおもいますか」という項目に対しても、約 80%の児童が肯定的に回答しており、全国と比較しても肯定的回答は高い水準にあります違う価値観をもつ友だちの意見や多様な考え方を生かして自分の考えを形成する力、自らの問いをもち主体的に学ぶ力は、これからの社会を生き抜く上でも大変重要な力であり、今後も様々な教科を通して身に付けさせたい力であると考えています。

ぜひご家庭でも、親子の会話の中でしっかりと自己表現の機会を設けていただき、自信をもって自分を表現できる児童の育成のために、共に歩んでいきたいと考えています。

調査結果からの成果と課題

国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
東広島市立西条小学校	138	11.0 / 14	79	12.0	2.7
広島県（公立）	22,120	9.6 / 14	69	10.0	3.0
全国（公立）	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

○成果と●課題

- 自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
- 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
- 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けることができる。

今後の取組

- ・説明文や物語文を読んだ後、その文章にはどのようなよさがあるのか選択させる活動を取り入れる。
①時間の流れが分かりやすい文章 ②内容がまとまりごとに分かれている文章 ③原因と結果がはっきりしている文章 ④手順や順序がはっきりしている文章 等
- ・「友だちにおすすめの本を紹介する文を書こう」等、「誰に」「何のために」書く等、目的を明確にして書く活動を取り入れる。また、自分の書いた文章を読み直し、伝わりやすい文章になっているか確かめる時間を設ける。
- ・理科や社会科の授業と関連させ、図や表から読み取れる情報を短くまとめる時間を設ける。

算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
東広島市立西条小学校	139	11.3 / 16	71	12.0	3.8
広島県（公立）	22,133	9.4 / 16	59	10.0	4.0
全国（公立）	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

○成果と●課題

- 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数値を見出すことができる。
- 台形の意味や性質について理解することができる。
- 分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる。
- 「100%増量」の意味を理解し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる。

今後の取組

- ・図形を弁別する活動を取り入れる。その際、図形の構成要素に着目して図形を比較したり、図形の特徴を言語化して説明したりする活動を取り入れることで図形の見方を育てる。
- ・図や数直線を活用して加数と被加数の単位分数に着目させ、分母を揃える操作が「基にする数を揃える」ことだと視覚的に理解させる。
- ・「もとにする量の□%」と、「もとにする量の□%増量」の違いを考える授業を行う。また、もとにする量に対して、□%や□%増量という数値がだいたいどのくらいになるのかという結果の見通しをもたせる時間を設定し、答えを出した後に妥当性を検討する習慣を身に付けさせる。

理科

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
東広島市立西条小学校	139	12.0/17	71	13.0	3.1
広島県（公立）	22,134	10.1/17	59	11.0	3.7
全国（公立）	936,576	9.7/17	57.1	10.0	3.8

○成果と●課題

- 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識を身に付けることができる。
- 発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができる。
- 身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けるものがあることの知識を身に付けることができる。
- 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能を身に付けることができる。
- 水の蒸発について、温度差によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解することができる。

今後の取組

- ・身の回りの金属について、電気を通すものと磁石に引き付けるものを別々に調べた後、「電気は通すけれど、磁石を引き付けないもの」「電気は通さないけれど、磁石を引き付けるもの」「電気を通し、磁石も引き付けるもの」「電気も通さず、磁石も引き付けないもの」と4つに分類する活動を行う。それにより、電気の性質と磁石の性質を関連付けながら整理し、知識を定着させる。
- ・実際に顕微鏡を操作する活動を十分に授業に取り入れ、観察しにくい場面を交流させる。また、その解決策と、顕微鏡のどの部分をどのように操作すればよいのかということに関連付ける活動を行う。
- ・実験を通して、「沸騰」「蒸発」「水蒸気」「湯気」の意味や状態を正しく理解する時間を確保する。また、実際の実験で水の温度変化と水の状態を関連付けた後、動画を視聴させ、水の状態の変化の知識を概念的に捉えられるようにする。